

平成22年度福岡・蛭川地区女性懇談会議事録

開催日時	平成22年11月10日（水曜日） 15時00分 ～ 17時15分
開催場所	蛭川公民館（蛭子座）
出席者	福岡・蛭川市民：福岡9人、蛭川13人、 計22人
	行政：大山市長、福岡・蛭川総合事務所長、地域振興局長、広報広聴課長及び課員、福岡企画振興課長及び課員、蛭川地域福祉課長及び課員、行政管理課、

■開会のことば … 司会者等あいさつ （蛭川：●●さん）

■市長あいさつ及び市政報告

- ・新装 蛭子座で初の会合で、福岡と蛭川との合同になって2回目。
- ・女性懇談会はいろんな角度から、市民の皆さまからご意見をいただき市政に反映させるためにおこなっています。
- ・職員や市議員などにご意見やご要望をされているが、市政に反映されていないのでは？それが市民のかたの不満になっている。
- ・すべてのことができるわけではないが、「なぜできない、予算がいくら必要、時間がどれくらい必要」などをご理解いただくことが大事。
- ・今日、聴いたことだけではないかたちで市政に反映させていくことが大事
- ・蛭川のMAIKA祭・蛭子座、福岡の産業祭文化祭・常盤座とよく似ている地域。
- ・違う地域のご意見を聴くことで一体感を深めていただく。
- ・合併6年目、5年半で折返しを過ぎた。各地域が個性を出しながら、力を合わせて行く。
- ・力を合わせる良い例として、東濃体育大会は合併後ほとんど中津川市が優勝している。
- ・市政においては、区長会は男性ばかりで市議員で2人と、女性の意見が届きにくい。
- ・産業振興、住宅の整備、子育て支援の3点セットに加えて、教育、医療、交通、情報4つの施策を重点的取り組みとしていく。
- ・中山間地域の人口減少をくい止める、「結婚・出産・子育て・教育・働く場」の5つステージにおける施策を大切にしていきます。

■市側自己紹介 … 出席者順次自己紹介

■要望等の進捗状況報告 … 別添配布資料により説明省略

■各地区トピックス報告 … 別添配布資料により説明省略

■懇談内容（司会：林 まゆみさん【蛭川】）

発言者	発言要旨	対応者	対応(回答)の内容
<p>(女性ネットワーク) (福岡) ●●さん</p>	<p>◆健康保険料金について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院にかからない人は保険料を安くしてほしい。自分は予防医療を実践し、14年間受診していない。自分の家族は医者にかかると薬を徐々に止めていったら治癒した。元気に暮らしている。家族はほとんど病院に行っていない。薬の飲みすぎで病気をつくっている。予防して病院に行っていない人との区別をするべき。 ・医療費が安いから安易に受診する。医療費は若い人にも負担がかかるので保険料に差をつけてはどうか。 ・自分の健康は自分で気をつけていこう 	<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療保険については日本全体としては皆保険が世論として支持されているが、病院によくかかると自己負担の額は増えるので差はある。一方で自己負担額の差がよくないという考えの方もいる。 ・社会保障として医療を受けることを保障することは大事。自己負担として歯止めがかかりながら、全体で助け合う形になって機能しているし、市民に支持されている。 ・薬漬けの点・保健（予防、健康づくり）は大事だが、医師の薬で病気になるというのは医学の分野、医師と患者の問題で、議論はあるが、市としてその部分は踏み込みにくい。この場ではお答えにくい分野。 ・まずは保健、予防、健康づくりは市の政策として取り組むこと。結果として保険料がさがることにもつながる。

蛭川地区 (健康推進 委員) ●●さん	◆予防医療について <ul style="list-style-type: none"> 健康福祉会館で開催される予防医療の講演会など機会があるが、不便なので行けないので、地元で開催して欲しい。 蛭川の診療所の2階の施設を活用して欲しい。 蛭川に保健師を常駐して指導してほしい インフルエンザの予防注射の子どもへの助成をお願いしたい。 	市長	<ul style="list-style-type: none"> 地元でとの話は、知識の普及と保健指導についての話。 保健士による生活指導などの部分の方が大事。例として付知が恵北の中でも力を入れていて健康保険料も低かった。医者にかかる前に健康づくり＝人員、体制、金はあるが、同じ金をかけるなら健康のままがいい。健康づくりは栄養・運動・趣味・健診の4要素が大切。現地での健診、指導、取り組みをグループでやる(長続きするよう)のが目指す形。 研修などの開催は検討したい。全部旧町村での開催は難しい。現地の保健士の配置から考えたい。 診療所は所長から診療所の医師の指導を受けていけばいい＝保健師が医師の指導受けては？杓子定規の話。補助金返してやればいい。使えない空間ではだめ。やらない理由じゃなくやる方法を考えよ。 子宮頸がん、ヒブワクチンの方が重篤性の観点から先に対策をうつ、インフルエンザは効果に多少議論がある(厚生労働省)来年度予算で対応を検討中。インフルエンザは保留
		柘植蛭川 総合事務 所長	<ul style="list-style-type: none"> 蛭川診療所の2階にあるリハビリ施設は医療施設で医師の指導のもとであれば可能
		林地域振 興局長	<ul style="list-style-type: none"> 施設導入は医師の意向もあってリハビリのための施設を作ったが、理学療法士が来られないのでできない。多目的利用できないか保健所と掛け合っても医療施設である以上はだめ。 医学的にリハビリに必要な方には処方箋を書いて医師の指導を受けた看護師が行っている。
(女性ネット ワーク) (福岡) ●●さん	◆予防接種について <ul style="list-style-type: none"> これからの子どもたちを守っていくのは予防接種は大事ですが、肺炎球菌ワクチンについても8割防げるので今後はお願いしたい。 	市長	<ul style="list-style-type: none"> 子宮頸がんワクチン、ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンが急がれるものと認識している。国がやっていく部分に続く部分、優先順位の次のものに市の金をつぎ込んでいく部分、国の予算を見ながらH23予算を検討していく。重篤度の高い方からやっていく方針。

<p>(蛭川) ●●さん</p>	<p>◆蛭川駐在保険師について</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの点でも大事だが、子どもの発達について蛭川ですぐに相談できる窓口がなくなった。福岡へと言われしまう。ぜひ蛭川で保健師にいてほしい。 他所からお嫁にきたお母さんたちの要望で、子どもが遊べる公園が欲しい（大きくなくていい、遊具1つ2つ）他のお母さんや子どもとのつながり、輪が広がる。 	<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保健師については職員850人体制の組み立ての中でもう少し深く考えたい。消防士は維持、一般行政職は採用を控えていたが、保健士は組立がまだ弱かった。人口の絶対数ではなく、人口密度も考慮し、地域のバランスを考えて、広い市全体を見渡してしっかりとした考え方を組み立て、その上でお知らせして納得の行く形にしたい。 公園は都市部から来られた方は公園デビューなどの話もあり、他の地区についても同じ話。公園に行くことで情報交換の場になるという点もある。全体で検討したい。
<p>(まちづくり協議会) (福岡) ●●さん</p>	<p>◆女性懇談会の開催方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性懇談会にすごく期待しているので、これで2回合同開催なので来年は福岡だけで、次は合同で交流するという形にしてほしい 	<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他の懇談会でも車座で市長と懇談したいという話も出たが、会議の場だけでは8万5千人の市長1馬力で聞く、氷山の1角にすぎない。1馬力で聞いているだけではだめ。 直接対話では海の部分で担当部署で跳ね除けているかも。市民の皆さんの要望を職員がどう受け止めたかも検証が必要。850人の2倍の耳で聞ける市役所にしていきたい。市政懇は全15地区、女性懇は合同で8地区、若者懇、高齢者懇をやっている。市長の物理的時間の限界。 懇談会は市民の声がちゃんと届いているか検証する機会にもなるが、開催回数については現状でお願いしたい。事前懇談会という総合事務所長を中心としたやり取りを充実して、その検証の形で懇談会で聞かせていただくように位置づけたい。
<p>(まちづくり協議会) (福岡) ●●さん</p>	<p>◆がんサポについて</p> <ul style="list-style-type: none"> がんばる地域サポート事業、3年で自立、3人のボランティアで高齢者サロン、どんどん増えているので補助金が出るようにしてほしい 	<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者サロンは必要性が高いと思われる。 補助金継続については、補助金の内容は増、減について検証が必要。ゼロベース予算として積み上げたい。合併後10年で財政は厳しくなる。減らす部分もある、痛みも分かち合っていたらきたい。効果のある部分については福祉部門でという方向で検討したい。

<p>(まちづくり協議会) (福岡) ●●さん</p>	<p>◆NPO の女性懇参加について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H21 にNPOでの互助交通のことをお願いしたが、6回市の情報交通課と話をし、阿木と福岡でまず始めてみる話になっている。こういう会議にNPOのボランティアには声がかからない。 	<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOについては地元の皆さんにお任せして出席してもらえばいい
<p>(中学校PTA)(蛭川) ●●さん</p>	<p>◆杵振踊りの継承と中学存続について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での伝統文化継承の取り組みとして、杵振踊りに多くの子どもが参加、蛭川を離れた子どもたちも当日帰ってきて踊る。中学校で踊り、継承の取り組みがあるからぶっつけ本番で踊れる。踊る子どもを誇りに思った。 ・少子化対策の5つのステージについての話があったが、蛭川では伝統文化がここに入る。 ・中学校の統廃合により蛭川中学校がなくなるとこの伝統文化がなくなってしまう。蛭川中学校を存続してほしい。 	<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おっしゃるとおり。基本的にふるさと意識の醸成、継承は大事。 ・教育については公約にも上げて教育委員会に話をしている。 ・市長公約の「自然体験やふるさと教育の充実」(P9) ・地域のは合併したからといって埋もれさせず育てていく。子どもたちに受け継いでいって欲しい。 ・少子化により複式学級になる事態は、国や県の政策が対策をうっていない、しわ寄せが中山間地にきているもの。時代潮流(P2)：地方の人口減少が国家的課題、中津川市はUIターン住宅の取り組みをやっている。 ・蛭川の地域の良さを継承(文化、お祭り、産業)するには市の取り組みとして3点セット+4で施策を行っていく。 ・杵振踊りについては中学校でなくても地域で教える方法もある。PTCA(地域=C)について教育委員会でも取り組んでもらっている。将来における「勤勉彊直」塾としてPTCAで、祭りは地域のものとして継承してもらいたい。

<p>(すみれの会)(福岡) ●●さん</p>	<p>◆聴覚障害者への配慮について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の障害者へのサポートのために活動している。 <p>聴覚障害の方の日々の不安を解決するために小さなサークルでがんばっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要支援者のリストを作って消防署と協力体制をとったり、消防署と交渉し電話が無言でも出動してもらえらる。 ・交通事故では警察に電話ができない方からサポートの要請あったが、警察が車にも乗せず通訳をさせてくれなかった。 <p>手話講座の継続もしてほしい、消防署でも講習を受けてもらえたが、警察や、市民の窓口でも手話通訳等研修してほしい。</p>	<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会全体としての姿勢にかかわるもの。啓蒙活動にも関わるが、少なくとも公共サービスの側での対策は必要。 ・福祉については、狭く深く、声が少なくても助けが必要なところにサポートをと考えている。 ・ノーマライゼーションの考え方はあるが、市全体には行き届いていないので、粘り強く啓蒙していく。 ・代読問題は別のもの。障害については出来ないことは社会的にどうバックアップを、出来る部分には本人にがんばってもらう。障害をもった子どもの教育も基本的に同じ考え方。
<p>(すみれの会)(福岡) ●●さん</p>	<p>◆避難マニュアルの作成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年前に聴覚障害者協会と手話サークルでマニュアルを作って消防署に渡した。障害者への対応が不足するので作成した。 ・また新しく避難マニュアルをつくるなら、障害者の意見も入れてつくっていただきたい。 	<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料(P27.28)要援護者の支援、自主防災組織、区長の取り組みでまず要援護者の把握からどうサポートするかを組み立ててもらおう。 ・どう組み立てているか詳しく説明できないので確認して別途お答えする。入っていないければ要援護者の支援の意識を入れてやっていく。 ・避難マニュアルでどこまでカバーできるかも問題。マニュアルにないと出来ないでは困るので、支援すべき対象の明確化、何をサポートするか内容を検討すべきと考えている。
<p>(北商工会女性部)(蛭川) ●●さん</p>	<p>◆結婚相談の開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併のメリット、デメリット、商工会の合併では、一体感がある程度ある、各支部の交流ができた。 <p>結婚相談、市の取り組みは？</p>	<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚相談では「結婚活動支援事業」(P9)を活用してください。PR不足してたかも。 ・阿木では地域の生き生きネットワークで活用してやっている。

<p>(北商工会女性部)(蛭川) ●●さん</p>	<p>◆高齢者の買い物について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店が減少、老人が買い物に行けない 地域活性化など市の協力は？ 	<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の買い物については、互助交通(P18)で買い物の足を確保する「新ファミリーサポートセンター」という取り組みを考えている。今のファミサポは勤労者、子育て、介護という枠が決まっているが、もう少し広くしたい。 ・福岡、阿木でモデル的にやって、他の地域に広めていきたい。
<p>(文化協会)(蛭川) ●●さん</p>	<p>◆文化施設の利用料金について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蛭子座を新しくしてもらってありがたいが、利用料が改定され、無料から有料になった。負担は大きい。 ・今日の資料にポイント制度があるとあった。今年4月からとあるが初めて聞いたので詳しく説明して欲しい。 	<p>市長</p>	<p>資料(P34)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜明け前スタジアムの管理費から発想。使う人に管理を手伝ってもらい使用料を減免する。スポーツ施設から文化施設へ拡大。始めたばかりなので今後中身に手を加えていく。 ・合併して料金については公平性のために統一、負担をゼロにするということは税金を入れる＝使わない人も負担することになる。合併は痛みも分かち合う必要がある。 ・中津川市役所職員はいいことを宣伝してない。広報していかなければならない。

■市長総括

- ・私が直接聴かないと対応できないような市役所ではダメ。
- ・市役所が、耳・目・頭・手足を大切にしてお応答する。
- ・総合事務所長には、旧の町村長の代わりをするようにやってもらう。
- ・常時、ご意見を聞かせていただき、それにしっかり対応できるような市役所にします。

■開会

閉会のあいさつ(●●さん【福岡】)

[終了 17:15]